

母乳育児

研究者, 出版年	デザイン	場所	研究の対象者	結果	効果	備考
Hofmeyr et al., 1991	RCT	ヨハネスバーク (南アフリカ)	健康な初産婦 とその新生児。 (貧困層)	産後 6 週間の時点で母乳のみで育児している母親がドゥーラありのグループ(74名)で 51.4%、ドゥーラなしのグループ(75名)では 29.3%と有意であった。 産後 6 週間目までに分泌不足で人工ミルクに切り替えた母親が少なかった(13.5% vs. 32.0%)。	あり p<0.01 あり p<0.0001	産後 6 週目で母乳育児で問題のある母親がドゥーラありのグループで有意に少なく(16.2% vs. 62.7%, p<0.0001)、フレキシブルに母乳育児をしている母親が多く(81.1% vs. 46.7%, p<0.0001)、乳児の食欲がないと答えた母親がいなかった(0% vs. 25.3%, p<0.001)。
Landry et al., 1998	RCT	不明	健康な初産婦 とその新生児	産後 6-9 週目 ドゥーラあり(33名)とドゥーラなし(71名)のグループで差はなかった	なし p>0.05	学会発表の要旨のみで情報が少ない。
Langer et al., 1998	RCT	メキシコシティ (メキシコ)	健康な初産婦 とその新生児	産後 1 か月の時点で母乳のみで育児している母親がドゥーラありのグループ(334名)で 12.3%、ドゥーラなしのグループ(320名)では 7.5%と有意に多かった。 哺乳中に穏やかな雰囲気をつくる(60.5% vs. 24.7%)、乳首のケアをする(21.3% vs. 9.4%)など、授乳行動を促進する行動がドゥーラありのグループで有意に多く見られた。	あり p<0.05 あり p<0.05	全体に、母乳育児の率が低い。ドゥーラは母乳育児について母親に教育をおこなった。母乳育児を中止した母親に理由を尋ねたところ、ドゥーラありのグループでは母親の体調不良が一番の原因だったが、ドゥーラなしのグループでは分泌不足という回答が一番多かった。
Walton et al., 1998	RCT	カリフォルニア (US)	健康な初産婦 とその新生児	産後 4 週目 ドゥーラあり(169名):87.9% ドゥーラなし(209名):84.2%	なし p>0.05	学会発表の要旨のみで情報が少ない。

Gordon et al., 1999	RCT	カリフォルニア (US)	夫や家族に付き添われ、約半数が白人、高学歴の健康な初産婦とその新生児	ドゥーラありのグループ(143名)とドゥーラなしのグループ(145名)で、分娩直後(95.3% vs. 95.3%)、産後4週目(90.1% vs. 87.4%)ともに有意差はなかった。	なし p>0.05	母乳育児推進に熱心な病院だった。
Altfeld, 2002	比較グループなし	シカゴ (US)	10代、大半がヒスパニックまたはアフリカンアメリカンの母親とその新生児。86%が初産婦。	分娩後すぐドゥーラサポートを受けた母親(261名)は80.1%が母乳育児を開始し、産後6週目で62.3%、産後3か月で33.6%、産後6か月で21.8%(州平均12.3%)が母乳育児を継続した。	あり	コミュニティベースドゥーラ
Hodnett et al., 2002	RCT	計13のUSとカナダの病院	75%が白人で社会的に恵まれた層。経産婦も含む。合併症のある産婦や双胎も含む。	産後6週目ドゥーラありのグループ(2836名)とドゥーラなしのグループ(2765名)で、母乳育児をしていない女性の数に差はなかった(1027名 vs. 937名, p>0.05)。	なし	